

新技術情報提供システム NETIS 更新情報

NETIS (New Technology Information System) とは、国土交通省が新技術の活用のために、新技術に関わる情報の共有及び提供を目的として運用している技術データベースである。

土工 ダウ化工(株)
 KT-090016-A XPS 工法

本技術は、XPS を用いた超軽量盛土工法である。従来は「発泡スチロールを用いた超軽量盛土工」(EPS) を使用していた。最下段部に高強度ブロック(XPS ブロック) を使うことで、盛土全体のブロック使用量を減らし、経済性・生産性を向上させた工法である。



共通工 ジオスター(株)
 KT-090014-A さくさく SLIT 工法

本技術は、仮設土留機能を兼ねる本設のプレキャスト側壁を使用した矩形トンネルの急速構築技術である。従来は仮設土留工と現場打ちによる躯体構築を実施していた。本技術の活用により、仮設工を大幅に省略できるため、工期短縮・工費低減が実現できる。



共通工 WILL 工法協会(株)トーメック 九州支店内)
 QS-090004-A WILL 工法(スラリー揺動攪拌工)

軟弱な粘性土地盤やN値40までの砂質土地盤に、固化材を注入しながら揺動攪拌混合し、安定した改良体を形成する工法である。

コンクリート工 曙ブレーキ工業(株)
 KT-090011-A コンクリートの充填検知システム「ジューテンダー」

コンクリートの充填を確認したい箇所へセンサを取り付け、充填確認を瞬時に検知システム。コンクリートの未充填部発生を防ぐ。

共通工 西鉄グリーン(株)
 QS-090005-A グリーンコスモ緑化工法

ヒメイワダレ草と綿シートによる緑化を行い、ヒメイワダレ草の雑草を寄せ付けない特徴を利用して、維持管理作業を低減する工法。

仮設工 JFE 建材(株)
 KT-090005-A TRID 工法

函体により、既設水中橋脚の仮締切を構築する工法である。締切内部の切梁仮設作業が省略できるため、工期短縮が期待できる。

コンクリート工 (株)ノックス
 KT-090009-A デラバント

鉛直面のコンクリート打ち継ぎに使用する速乾型凝結遅延剤である。打ち継ぎ面の処理費用削減、安全性・作業環境向上が図れる。

河川海岸 (株)ブレインズ
 TH-090001-A トラス式樋門上屋

アルミ合金造主体及び屋根部トラス方式採用の水門・樋門・樋管等の上屋。国交省告示第408・409・410号等準拠の構造計算で安全性を確保。

付属施設 昭和鉄工(株)

QS-090006-A 3WAY レールマウント方式 横断・転落防止柵「URBANEX FF-TYPE」

本技術は、ダクタイル鋳鉄製のフレーム型支柱と3種類のブラケットを組み合わせることで、フロント・リア・トップにレールの取り付けが可能な横断・転落防止柵である。周辺景観に調和する高いデザイン性と、多様な設置環境に対応する展開性を有している。



道路維持修繕工 ㈱日興

KT-090012-A T & C 防食

本技術は、2種類の無機系浸透剤を用いたコンクリート表層改質工法である。従来は無処理（打ちっ放し）であった。本技術の活用により、化学反応によるコンクリート表層の緻密化と耐久的な防水層を形成し、凍害、中性化、塩害に対する抵抗性の飛躍的な向上が期待できる。



道路維持修繕工 オバナヤ・セメントックス(株)

KT-090013-A SAN ショット工法

アンカーとネット併用急結性ポリマーセメントモルタル吹付け材接着によるはく落防止工法。工期短縮、はく落防止の品質向上も期待できる。

推進工 SMC コンクリート(株)

KT-090010-A 超大口径 PC 推進工法

PC 構造の分割型推進管を用いた推進工法。内径3.5～5 m対象の管渠が経済的かつ高品質で築造できる。

トンネル工 ㈱カテックス

CB-090005-A GRP ロックボルトシステム(パワースレッド)

ロックボルトの素材をガラス繊維強化プラスチックとし、ナット・プレートも樹脂化することで、ねじり棒鋼と同等以上の耐力を実現した。

調査試験 ㈱アーク・ジオ・サポート

KT-090015-A C3D による極浅水域での3次元測深技術システム

専用船を用いた極浅水域及びGPS 不到達水域に対応した3次元サイドスキャンソナー(C3D)による水深計測技術。

橋梁上部工 ㈱ニチワ

KT-090018-A メタルキラー

橋梁上部工の架設時に使用した大型の吊りピース等の切断に使用する電動の鋸挽き機械である。

調査試験 三井造船(株)

KT-090017-A ツインバスコンクリートかぶりセンサー

コンクリート構造物の鉄筋かぶり厚・位置と比誘電率を数値で表示する装置。計測時間短縮、データの電子化、非専門性が期待できる。